

令和6年度 福島市文化振興審議会（第3回） 会議録

◆日 時 令和6年10月18日（金） 午後2時00分～午後3時35分

◆場 所 福島市役所庁議室

◆出席者 委 員：初澤敏生会長、嶋原明寿委員、穴戸路枝委員、齋藤幹夫委員、清野和也委員、
村川友彦委員、高橋英子委員、丹野義明委員、藤本菜月委員、高橋康委員
事務局：8名

◆次 第

※全体進行

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議事（議長：初澤会長）
 - （1）報告
- 4 その他
- 5 閉 会

◆報告「福島市文化振興計画（素案の案）について」質疑応答・委員意見

【委員】

「ふくしまチェンバー・オーケストラ」の活動を取組の例に記載してはどうか。

【事務局】

以前から申し上げているが福島市のさまざまな施策すべてを記載しているわけではない。チェンバー・オーケストラについての記載は、ご意見を踏まえて再度検討し、事務局で判断させていただきたい。

【委員】

17 ページ「福島市らしい文化」の表現は、どこの場所にもあてはまってしまうのかなと考えた。

【委員】

9 ページに「土湯・高湯・飯坂」の順で3つの温泉地が記載されているが、「第6次総合計画まちづくり基本ビジョン」51 ページには「飯坂、土湯、高湯」の順で記載されていて気になった。

【事務局】

観光部署等に一般的な並び順を確認し、必要があれば修正する。

【委員】

11 ページ「(4)歴史を伝える文化財」の文化的資源の例の土木遺産・近代建築に「石橋群」とあるがわかりにくい。できれば名前を入れてもらいたい。また、近代建築として写真美術館が記載されていると思うが他はどうなのか。例えば福島県教育会館がそろそろ近代建築に入ってくるのではないか。今回はこれ

で結構だが、これからは近代建築の洗い出しが必要だと思う。近代建築の保存・活用が大事になってくると思う。積極的に調査や各団体との調整をするといいと思う。

【事務局】

「石橋群」だけでは何を示すのかわからないというご指摘だが、すべてを網羅的に計画に記載するのは難しい。洗い出しをすれば固有名詞のつく文化財は多くあるが、それらを網羅的に記載するのは難しい。近代建築についても、ご指摘の内容は重々理解しているが、現段階で近代建築を積極的に残すという施策にまでたどり着いてない。現状を記載したということでご理解いただきたい。

【委員】

福島市の文化振興計画は幅が狭く浅いと感じる。取組の例はあるが福島市として文化振興施策をどのようにしていくのかが見えてこなかった。福島市らしい文化についてもどこでも通じるような内容になっている。それはなぜかということをもう少し考えていただいて、福島市の文化振興はどうあるべきか少し考えていただきたい。文化庁の方針に文化芸術拠点の充実があるが福島市の文化振興としてはどのように考えているのか。予算的に難しいということはわかるが文化施設建設に関する考えを計画に記載すべきと考える。

【事務局】

ご意見いただきましたとおり今回の計画はビジョンに近いようなものになっていると考えている。この審議会も今年2月に発足し、条例も令和5年1月に制定されたばかりであり、市としてこれから計画的に文化振興施策を進めていく第一歩ということで考えている。今後、この計画に基づいた具体的な施策等をこの審議会でも報告していく中で、皆さんからご意見をいただきながらさらに深めていくことで次の計画をよりいいものにしていきたいと考えている。

【委員】

今現在の福島市の文化は県内の市の中でも最低、県庁所在地の中でも最低レベルだと感じている。文化振興に力を入れていただきたい。

【事務局】

今後より一層振興を図っていきたい。

【委員】

例えば、文学などについては研究がされてないため計画に入れようとしてもなかなか資料がない。つまり基本的な調査研究がかなり不足しており、具体的に書ける内容がないというのが実態と感じている。この審議会には専門家が集まっていると思うので、我々の手で少し研究を深めて、それを発表していくことが求められているというような気もする。市はあまり予算がないということなので、皆様のお力によることになるかもしれないが、ぜひ皆様のお力を借りながら進めていければと考えている。

【委員】

福島らしい文化について一義的にこれだというものはなかなかない。この5年間の施策でそれぞれ福

島市らしい文化というものを創造していくことを目標にされてるのかと思っている。

18 ページに基本理念、19 ページに計画体系があるが、条例上の基本理念がどのように基本方針や基本施策に繋がっていくのかが見えない。ここで切れているような感じがするので、そこをつなぐような文言が必要だと思う。基本方針 5 が基本理念の 5 と 6 を合わせたような形なのかと思うが、そうであればもう少し基本方針 5 の施策を手厚くしてもいいのではないか。文化観光をまちづくりに生かすというのが今回の法律改正の趣旨でもあるので。

以前、9 ページ「本市の文化」で飯野町についてもう少し触れた方がいいのではないかと申し上げたので「UF0 の里」としてのまちづくりを記載されたと思うが「文化」としては少し違和感がある。施策 5 に入っているほうがすっきりする。

御倉町にある旧日本銀行福島支店長役宅で阿武隈川の川わたしの文化など展示して周知している。御倉邸は文化財ではないからなのかもしれないが川の文化が福島市らしさのところにあってもいいと思う。

【事務局】

御倉邸は文化財にはなっておらず、市の公園緑地課が所管している。

【委員】

御倉邸も近代建築・近代遺産として、市で大切にしていけるべき施設ではないかを感じる。

【委員】

福島は舟運を除いては歴史的に考えられないという話がある。御倉邸のところにある米蔵が本来の使用目的の説明がなく使われている。歴史を踏まえたうえで利用すべき。

【委員】

確か以前、御倉邸のところを整備して川岸のところから米俵を和船に乗せて運ぶデモンストレーションを一度だけやったことがある。御倉邸でそのまま使われている昔のゆがんだガラスをどのようにしていくかということを公園緑地課にお任せで本当に大丈夫かいうところもあると思う。さまざまな政策が縦割りになっていて全然関係が見えないので、整理して文化振興課がイニシアチブを発揮してすばらしい文化を守ることができるようにしていただきたいと思う。

【事務局】

舟運の関係については、作成を進めている文化財保存活用地域計画の本市の歴史文化の特徴というところでピックアップしていきたいと考えているので、そちらの方でご検討願えればと思う。

【委員】

12 ページ「文化の担い手の高齢化」の中で、LINE アンケートで福島市らしい文化について 25% の人が思い浮かばないなどの回答をしているが、こういう回答になったのは、福島市らしい文化に接する機会が減っている状況が見られるからだという分析をしている。一方、17 ページでは「あなたが福島市らしい文化だと思えばそれは福島市らしい文化だ」という考え方で提示されていて、この繋がりがあまりピンとこない。12 ページのアンケートの時点では、市としては、福島市らしい文化というものは伝統芸能

や受け継がれてきたものであり、それに接してないからみんな感じられないんだと分析しているように見えるが、明文化されるとそういうものではなく、何でもかんでもに見えてしまうのではないかという印象。そのまちらしい文化は、そのまちの変わりようのない歴史や自然というものを踏まえた上でそこから生まれてきた音楽や美術、食文化や生活様式だと思うので、その背景、そのまちにしか本当にはないものを明記した方がいいのではないか。大きく変える必要はないが、歴史などを踏まえた上での、という一文は必要ではないかと思う。

37 ページの音楽堂の説明に演劇にも利用可能とあるが、音楽堂の大ホールは演劇には使用できないのになぜこういう表現をしているのか。

【事務局】

9 ページの飯野町についてはどのような表現がいいか事務局で検討させていただければと思う。

参考資料に記載している文化施設については、文化的な施設という意味合いだとさまざまな施設が市内にあるが文化施設の定義が難しいので、この本計画策定段階では文化振興課が所管している施設として整理している。今後、皆様から意見をいただきながら深めていければと思う。それぞれの施設の説明は一般的に使われている表現をそのまま使ったものであるということでご理解いただければと思う。

「福島市らしい文化」については、事務局内で検討した中では、現時点で誰もが「この歴史を踏まえて、これが福島市らしい」というのは難しいのではないかという議論になった。福島市にどのような歴史があったのかは、ずっと福島市で暮らしていてもわからないこともあるので、現時点ではこのような捉え方を事務局として整理させていただいた。今後、文化の洗い出しなどを進めていく中で、福島市らしい文化というのがもっと見えてくるといいと感じている。

【委員】

福島市らしいということを皆で深めていく機会やパブリック・コメントを通してさまざまな意見を集約する中で、もう少し具体的に見えてくるといいと思う。

【委員】

それぞれの人が思う福島市らしい文化というのは、この地に住んでいる人たちが、この地の歴史やそういうものに基づいて生活した上で出てくるものだと思うので、歴史に基づいてなどという一言は入れてもいいのではと思う。これまでのゆるがない歴史や文化などはきちんと表記していただいた方がいいと思う。

この政策は何でもありというような感じになっていて、そこからどのように事業を作っていくのが肝になっていると思う。どうしたら、この目指す姿に近づいていくのか、1つ1つの取組の例を詰めていく必要がある。もっと溶け込むにはどうしたらいいのかを考えて真剣に向き合っていないとせっかく計画を作ったのに…となってしまうと思うので、市としてどのようにコントロールしていくのか伺いたい。

【事務局】

福島市らしい文化については、事務局で検討した結果を記載しているが、本日ご意見をいただいているので、それも踏まえてどのような表現がいいか検討していきたい。

【委員】

おそらくこれからさまざまな事業が上がってくると思うが、それが「文化が人と地域に溶け込むまち」になるための事業になっているのかを1つ1つ精査していく必要があると思っている。今はどのようにになっているのかと、計画ができたならどのようにしていくか、もし何か方向性が決まっていれば教えてもらいたい。

【事務局】

これまで、このような計画が福島市の文化にはなかったため、今回初めて作成するという事で基本方針と基本施策という形でまとめてきた。今後の事業展開については、庁内の事業がこの計画の基本方針のどこに該当するものなのかをしっかりと捉えながら、意識をして事業展開をしていくように庁内に周知を図っていききたい。

【委員】

どこに該当するかはおそらくわかると思うので、その中身をもっと精査していただきたい。

【委員】

駅前拠点施設に公会堂機能がなくなってしまった。条例がどうのこうのという前の問題。

現在、福島テレビのところまで道路整備が進んでいる。花の写真館も道路整備に入っているなら将来的にどうなるんだろうと非常に疑問に感じている。

【事務局】

都市計画道路に関しては、担当部署で必要性を見定めて見直し作業が進められている。

文化施設に関しては、この場でお答えするのは大変難しい。当初は東口駅前に文化芸術ホールとコンベンションホールということでハイブリッド型の施設を建設する計画だったが、資材や人件費の高騰などがあり、コンベンションホールにさせていただくということ。公会堂機能ということだが、今まで公会堂が担ってきた市民の皆さんが歌や踊りなどを発表する場としては、コンベンションホールでも十分に対応できるものと考えている。プロの劇団やオペラなどハイクラスものに関しては、なかなか対応が難しいとのことなので、そこに関しては施設の必要性の有無について検討していかなくてもならない部分かと捉えている。全市的な施策なので文化という括りの中では捉えきれない部分もあることをご了承いただきたい。

【委員】

9 ページ「本市の文化」のところ、市の文書として「UF0 の目撃例が多い」という文言を出してもいいのか。

【事務局】

「多いと言われる」ぐらいの方がいいかもしれない。

【委員】

施設建設には膨大な経費もかかるというのはわかるが、文化振興は拠点となる施設がないとうまくいかない。国もそのような考え。いつまでも「お金がないからできない」で終わってしまうのでは困るのではないか。今できなくても将来施設を建設したいという意思表示しておかなければならないと思う。県庁所在地に博物館がないのは福島ぐらいのもの。これは文化財の保護と保存活用の方でも問題になると思う。

【事務局】

博物館がないなどは事実として受けとめているところ。この計画を作るにあたっても内部でもいろいろ議論があったところだが、現段階では記載できるまでのステージに上がってないという判断のもと、今回は記載を見送った。今後この計画を進行していく中で 5 年後の改定などでまた改めて議論をしながら検討していきたいと思っている。

【委員】

9 ページ「本市の文化」の中に、「わらじまつり」という言葉を入れてもいいのではないかと。そういう言葉を入れた方がこの振興計画をより若い世代に親しみを持って見ていただけるのではないかと感じた。地元の文化を感じる機会になると思うので、基本方針 5 の中に「わらじまつり」「例大祭」「飯坂けんか祭り」を含めて入れることもできるのではないかと。思う。

【委員】

わらじまつりは戦後に商工会議所が中心となって作った祭りなので、伝統的な行事とは違うが、本計画は現代的な文化も含んでいるので、そういう点から言うと入れることもできるというご意見かと思う。

【事務局】

わらじまつりも含めてさまざまなものについて、これも入れたほうがよいのではないかとというご意見いただいてきていた中で、全部を入れることはできないということで現状に落ち着いている状態。他のものは入れないが特にわらじまつりは入れるべきという根拠的なところが整理できるのであれば。委員の皆さんの総意で、福島市として特筆すべきものだというお考えがあるのかお伺いできればと思う。

【委員】

絆まつりなどでも福島を代表する祭りとして参加しているので資格があるのではないかと。

【事務局】

入れるとすると 10 ページは祭礼神事という括りなので、9 ページの「豊かな自然に育まれる文化」と整理をしたところがあるが…どこに入れるべきか。

【委員】

祭礼神事ではないと思う。

【事務局】

当初、わらじまつりも案の中にあったが、ジャンルを整理していくうちに入れるところがなくなっている状態。

【委員】

11 ページの「(3) 文化施設と文化活動」の文化的資源の例の中に、「その他」という項目を作って入れてはどうか。文化活動が少ないと感じていたことがあり、そこにわらじまつりが入るとそれが埋まるかと。

【事務局】

「その他」の項目にわらじまつりだけだと若干の唐突感があるので、何か一緒に入れることができるといいが。

【委員】

花火大会とわらじまつりはどうか。

【事務局】

文化活動として入れる場合には、本文に観光や祭りが出てこないなので、その辺りも検討が必要。

【委員】

暁まいりとわらじまつりをセットにしてはどうか。

【委員】

暁まいりとわらじ祭りは別物。わらじまつりは祭礼ではない。

【委員】

10 ページの文化的資源の例にちまきとあるがチガヤの葉で作るのがちまき。この辺で作るのは笹巻きという。

【委員】

ちまきと笹巻きについては調査して検討していただいた方がいいと思う。

【事務局】

わかる範囲で調べてみる。わらじまつりについてはどこに入れられるか再度検討するが、本文との関係等で入れられなかった場合には事務局の判断とさせていただければと思う。

【委員】

飯野のつるし雛はどうか。

【事務局】

飯野のつるし雛は平成 18 年ぐらいから始まったもの。当時、商工会の女性部の方々が中心となって、まちおこしとしてスタートしたもの。5 年 10 年と時間が経って、つるし雛祭りが福島市の特徴の 1 つだとなれば、いずれ記載することはあるかと思う。

【委員】

何年前からやってるかではないと思うので、その辺りも含めてご検討いただければと思う。

【事務局】

先ほどから、これを入れた方がいいのではという議論になってしまっているが、計画の中にすべて記載するのは難しいだろうということで、みんなが「これは例だ」と思えるようなものに整理してきた。ここに記載されていないから文化ではない、福島市らしくないということでは全くない。今回の計画については、このような範囲で一旦整理をして、今後計画を踏まえて実行していく中で表現を整理して、次回の改定に向けて作っていきたい。パブリック・コメント等でも同じように文化の例について意見がたくさん出てくると思うが、全部記載するのは難しいということで整理をさせていただければと思う。

【委員】

23 ページの「文化を創造する活動への支援」「文化活動の情報化への支援」の取組の例が他より少ない。もう少し他部局の文化的な政策を入れて増やせないか。最近はアニメ、サブカルチャー、デジタルを活用した新しい文化の事例が出てきている。市としてもこれまでの文化を継承するのも大切だが、新しい文化を創造する活動への支援にも力を入れていただきたい。

【委員】

これまでのやりとりを聞いていると今回は初めてなのでとりあえずこれでやってみて、というようなところが結構あったが、今後見直して、より完成度の高いものにしていかなければならないというような内容を計画の最初か最後に入れておくといいのではないかな。

◆その他

今年度の審議会は次回が最後となるが、決定した計画を書面でご報告する形式で開催する。

本審議会ではこれまで文化振興計画策定に向けて審議をしていただいていたが、来年度以降は年 1～2 回の定期的な開催を予定しており、策定した計画に基づく施策の進捗報告等をさせていただく。

次年度については、5～6 月頃の開催を検討している。